



# 自立活動だより No.2



令和元年11月5日 広島県立福山特別支援学校 教育研究部 発行

## 1 はじめに

本号は、アセスメントツールをテーマにしています。児童生徒の実態を捉えるためのアセスメントツールは本校作成「アセスメントチェックリスト」だけではなく様々な種類があります。そこでアセスメントツールのメリットを本校の先生方のインタビューを交えて紹介します。また、教育研究部における本校のアセスメントチェックリストに関する研究の取組について報告します。

## 2 アセスメントツールを使うメリットとは？

そもそも「アセスメント」とは・・・

「個人の状態像を理解し、必要な支援を考えたり、将来の行動を予測したり、支援の成果を調べること」

特別支援教育においては、個々の児童生徒の実態から教育的ニーズを的確に捉え、指導目標を設定し、適切な指導内容を定めていく必要があります。そのため、的確なアセスメントは、目標を設定し、指導していくうえで根幹を成すとても重要な位置にあります。（本校アセスメントチェックリスト参考）

### ☆アセスメントツールを活用するメリット4点☆

- ①客観的な実態把握ができる
- ②複数の目でチェックできるため、実態把握の正確さが上がる
- ③担任が変わっても一貫した指導ができる
- ④発達や教科の視点を含めた実態把握ができる

### アセスメントツールを使って良かったことを教えてください！！（本校の先生方へインタビュー）



生徒の実態を、コミュニケーション面、認知面等から把握することができました。また、次のステップを考える指標になったのもよかったです。

実態を定期的に見直すことや再確認することのきっかけになっています。

実態把握を行いやすく、どこが課題なのか分かりやすいです。また、その課題を共有しやすかったり、相談しやすいことも良いです。見えにくかった課題が明らかになり、その課題を達成するための手立てを考える手助けにもなります。実態を客観的に見ることもできます。



アセスメントチェックリストは、領域を超えた関連性（横の繋がり）が分かりやすいのに対して学習到達度チェックリストは教科指導に至るまでの系統性（縦の関わり）が分かりやすいです。アセスメントチェックリストは評価基準の幅が狭く、評価しやすいという良さがあり、学習到達度チェックリストは段階決めやチェックを止める基準が明確であるという良さがあると思います。



本校のアセスメントチェックリストが充実している箇所での実態把握ができるところがいいです。項目数が少ないので、短時間で手軽につけることができます。

国語、算数、生活、運動・動作という観点から実態把握をすることができます。生後1か月を表すスコア1から11歳を表すスコア132まで、幅広い実態把握の項目があり、今、どこまでできているか、これから何を目指していくべきかわかりやすいです。この本では、スコア1から、教科（国語、算数）としての実態把握ができると書かれており、どういうことだろうと思っていましたが、本を読んでチェックリストを活用すると、こういった力が教科につながっていくんだなど知ることができました。

教科の視点での実態把握が必要だと感じているので、これからも活用していきたいと思います。

☆その他アセスメントツールの情報は、本校発行の教材・教具集第8版 第4章をご覧ください。

### 3 本校アセスメントチェックリストに関する今年度の取組

#### ＜目的＞

平成30年新学習指導要領解説では、「自立活動の指導が各教科等において育まれる資質・能力を支える役割を担っている」と明記されており、自立活動の目標・学習内容と各教科の目標・学習内容のつながりを、教員一人一人が意識をしながら指導することが求められています。

本校では、重度・重複障害のある児童生徒の実態把握のために、独自に「重度・重複障害児のアセスメントチェックリスト－認知・コミュニケーションを中心に－」（以下、「アセスメントチェックリスト」）を作成し、活用しています。「アセスメントチェックリスト」は、初期段階の発達の順序性を考慮して、アセスメントする項目を配列しているため、自立活動の指導目標・内容の設定にも活用できるという特徴があります。そこで、本年度、教育研究部は、「アセスメントチェックリスト」の項目と小学部1段階（国語・算数）の内容（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」）とのつながりを明らかにし、発達初期の自立活動の学習内容から小学部1段階までの学習の流れを示す『学習内容表』の作成に取り組んでいます。

#### ＜方法＞

①V・VI・VII段階の各領域<sup>\*1</sup>の項目と小学部1段階（国語・算数）の内容とを関連付ける。

②II・III・IV段階の各領域の項目と小学部1段階（国語・算数）の内容とを関連付ける。

③国語「知識及び技能」「聞くこと・話すこと」「書くこと」「読むこと」の4列に項目を配列する。（←10月現在段階）

④算数「数量の基礎」「数と計算」「図形」「測定」の4列に項目を配列する。

⑤小学部1段階（国語・算数）の内容までの指導内容を系統的に配列した『学習内容表』を作成する。

#### ＜中間報告＞

・研究①、②…アセスメントチェックリストの項目（発達初期段階の学び）が、小学部1段階の教科の学習につながることが明らかになりました。

国語	「要求表出」「人間関係」「聴覚・言語」「言語理解」「言語表出」
算数	「触覚等」「視覚等」「視覚・操作等」「数量・概念」

・研究③…国語の小学部1段階の内容と関係のある項目を、各領域をまとめて発達の順序性に基づいて配列しました。（概要は表1）。

*1 「アセスメントチェックリスト」の領域				
段階 (月齢)	コミュニケーション ケーション	人間関係	聴覚・言語	触覚等
I～IV (0～9)	要求表出	人間関係	聴覚・言語	触覚等
V～VI (10～24)	言語理解	言語表出	視覚・操作等	数量・概念

#### II段階

- 支援者の声掛けに対して、笑うなどの快反応がある（要求表出-13）
- 身体が動いているときに話しかけられると動作を止める（聴覚・言語-13）等

#### III段階

- 支援者の声掛けに応じるように声を出す（要求表出-17）
- 支援者の言葉掛けのリズム・高低・声色の変化に気付く（聴覚・言語-17）等

#### IV段階

- 支援者からの「ちょうどいい」に対し、何らかの応答をする（物を渡せなくてもよい）（要求表出-37）
- 何かを伝えるように、支援者に手を伸ばしたり声を出したりする（人間関係-27）
- 具体物を伴った言葉掛けに応答する（聴覚・言語-32）等

#### V段階

- 自分の名前を呼ばれると声を出したり、手をあげたりして返事をする（人間関係-42）
- 絵本に興味を示し、本を読むように絵を見る（言語理解-47）
- 支援者の声をまねてそのままいう（言語表現-42）・なぐり書きをする（視覚・操作-58）等

#### VI段階

- スイッチ等を使って簡単な選択や要求をする（要求表出-68）
- 支援者の話す単語をそのまま模倣している（言語表出-48）・鉛筆でぐるぐる○を描く（視覚・操作-60）等

#### VII段階

- 言いたいことがたくさんあり、「あのね」と言おうとするが、後が続かない（要求表出-74）
- 「～ちゃんはどこ？」と自分のことを聽かれると、自分を指さす（人間関係-62）等

#### 国語 内容 知識及び技能

- ア 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
  - (ア) 身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じること。
  - (イ) 言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりすること。
- イ 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
  - (ア) 昔話などについて、読み聞かせを聞くなどして親しむこと。(イ)遊びを通して、言葉のもつ楽しさに触れる。
  - (ウ) 書くことに関する次の事項を理解し使うこと。(エ)読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。

表1 学習内容表 国語 知識及び技能（試案）

引き続き作業をしていき、今年度末に、「アセスメントチェックリスト」の項目を用いて作成した学習内容表を「アセスメントチェックリスト」の別冊として発行する予定です。

【主な参考文献】※本校HPでは、過去の自立活動だよりも掲載しています。ぜひご覧ください。

- ・『重度・重複障害児のコミュニケーション学習の実態把握と学習支援』ジース教育新社 小池敏英、雲井未歎、吉田友紀（2011）
- ・『自立活動ガイドブック第8版』福山特別支援学校（2018）・『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編』文部科学省（2018）
- ・『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）』文部科学省（2018）
- ・『障害の重い子どもの目標設定ガイド』慶應義塾大学出版会 德永豊（2014）

地域支援だより「こやまが丘通信」は、本校の就学エリア（福山市、尾道市、府中市、三原市、竹原市、神石高原町、世羅町、大崎上島町）の保育所（園）、幼稚園、小学校、中学校、高等学校の先生方に配付しています。



広島県立福山特別支援学校 地域支援だより

# こやまが丘通信

令和元年12月発行

第4号



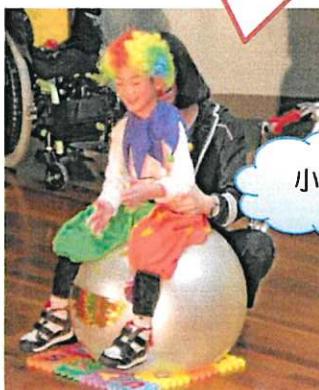
11月9日（土），学習発表会ステージ発表の部を実施しました。

児童・生徒たちは、それぞれの力を主体的に発揮し、それぞれが主役になり、発表することができました。当日は、たくさんの保護者及び学校関係者、地域の皆様、多数御参加いただき、ありがとうございました。

また、ボランティアをして下さった福山市立大学の学生さん、御協力感謝申し上げます。



ピエロ役をしました。バランスボールで、楽しく体幹トレーニング！



小学部

## 学習発表会の一コマ



中学部

SRCウォーカーで移動して、目的の場所（岩）へ！手を伸ばして、「岩」を倒しました！



高等部

ミニオン役をしました。台から手を離すと、パラシュートになる仕掛けになっています。パラシュートをとばした時、にっこりと笑顔が出ました。



## 今後の予定

内容	実施日	申込について
公開授業研究会	12月13日（金）	実施要項・申込書については、本校ホームページに掲載しています。（12月6日申込み）
学習発表会 (展示の部)	1月29日（水）～ 2月4日（火）※土日除く	特にありません。

令和2年度 本校入学希望の保護者様・担任の先生方へ

本校への入学の希望がある場合、12月中旬までに、「教育相談」をお受け下さいますよう、お願い申し上げます。希望日時については、お電話又はFAXで受付しております。

★令和2年度 高等部入学選抜の入試に関する実施要項ホームページに掲載しております★

# 公開授業研究会

研究テーマ「適切な実態把握と根拠ある指導に基づく授業作り」  
～重度・重複障害のある児童生徒の主体的な学びを目指して～

本校では、指導仮説を立て APDCA サイクルに基づいた指導・研究に取り組んでいます。特に、重度・重複障害のある児童生徒の「主体的に学ぶ姿」を具体化し、それを引き出すための指導・支援の工夫について授業研究を進めています。当日は、参加される皆様と共に、授業作りや指導の在り方について、議論を深めて参りたいと思います。多数の御参加をお待ちしております。※今年度は、講師による講演はありません。(9月 30 日に実施したため。)

○ 日時 令和元年 12 月 13 日（金） 10:00～16:20

9:30～10:00	中10:15(2校時)	小11:10(3校時)高11:00(3校時)	12:05～	13:00～14:00	14:00～	14:30～16:20
受付	中学部 授業	小学部・高等部 授業	昼食 休憩	開会行事・校長挨拶 本校の取組について	休憩・移動	研究協議

○ 公開授業 ※ I類型…準ずる教育課程、III類型…自立活動を主とする教育課程

2校時	中学部第2学年	I類型	数学	図形の性質と証明	教諭 武富 克裕	高1・2-1 教室
3校時	小学部第3学年	III類型	自立活動 (かんかく・コミュニケーション)	かんかくあそび	教諭 平原 春香	小3-2教室
	高等部第1学年	III類型	自立活動 (表現・コミュニケーション)	自分の気持ちを表現しよう (音・リズム)	教諭 亀山 史子	高1-3教室

9月30日実施 公開講座③「教科指導の在り方～自立活動の区別について」  
福岡教育大学 特別支援教育講座 教授 一木 薫先生



教科の場合	自立活動の場合
<ul style="list-style-type: none"> <li>目標の系統性</li> <li>扱う内容の順序性</li> <li>全ての内容を扱い、全ての目標の達成を図る</li> <li>何年生(何段階)相当の力をもっているかを把握</li> <li>十分達成していれば、次の学年(段階)の水準の指導目標を設定</li> <li>定着を図る必要がある場合は同年年(段階)の水準の指導目標を設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標は一つ</li> <li>内容に順序性はない</li> <li>指導目標の達成に必要な内容を選定</li> <li>6区分を視点として実態を把握</li> <li>課題の抽出</li> <li>課題間の関連を紐解き</li> <li>指導目標を設定</li> </ul>

図①：自立活動と教科の違いについて

毎年、公開研究会では、福岡教育大学の一木薰先生をお招きし、本校の研究について御助言をいただいておりますが、今年度は、9月 30 日に講演を実施していただきました。一木先生の講演の一部を紹介します。

一木先生からは、図①のように教科と自立活動の指導においては、扱う指導内容及び目標設定の仕方について、明確な違いがあることを分かりやすく説明していただきました。図②の特別支援学校小学部の算数科の事例で、算数科の目標（青枠）を達成する中での学習上の困難さ（赤枠）を把握し、課題を整理していくことで、自立活動で取り組むべき指導目標や内容が見えてくるのではないかと改めて考えさせられた研修となりました。

「自立活動の理念と実践～実態把握から指導目標・内容の設定に至るプロセス」

(古川勝也・一木薰著 ジアース新社)

○新学習指導要領対応！自立活動の指導目標・内容を設定する際のプロセスについて分かりやすく紹介されています。

★本校の専門書コーナーにもあります。貸出も可能です！

算数の例

いろいろな形	
「形の違いに気づく」 (小学部1段階)	「ものの形に着目し分類する」 (小学部2段階)
注意の持続が難しい	視覚認知の困難

図②特別支援学校小学部 算数科

算数科のねらい
学習上の困難さ

お問い合わせ TEL 084-951-1513 受付時間:月～金曜日(祝祭日を除く)9:00～17:00

FAX 084-951-3864 Email fukuyama-sh@hiroshima-c.ed.jp

〒720-0841 広島県福山市津之郷町津之郷 280-3 <http://www.fukuyama-sh.hiroshima-c.ed.jp/>

《担当》教育相談主任(特別支援教育コーディネーター):西谷 愛子 支援部長:安原 祥子

